| 科目ナンバリング | U-LAS55 10002 SB31 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名<br><英訳> | 海外実地セミナー :変容する東南アジアー環境・生業・社会と持続的発展<br>Overseas Field Seminars :Changing Southeast Asia - Environment, Livelihood, Society and Sustainable Development | | | 担当者所属<br>職名・氏名 | 農学研究科　教授　　樋口　浩和<br>農学研究科　教授　　上髙原　浩 | | |
| 群 | キャリア形成科目群 | 分野(分類) | 多文化理解 | | 使用言語 | 日本語及び英語 | |
| 旧群 | | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30時間 | 授業形態 | ゼミナール（対面授業科目） |
| 開講年度・開講期 | 2024・<br>前期集中 | 曜時限 | 集中<br>5/13 12:10-12:50 | 配当学年 | 全回生 | 対象学生 | 全学向 |

**[授業の概要・目的]**

近年、変貌の著しい東南アジアの環境・生業・社会・文化を理解するために、協定大学であるタイ・バンコクのカセサート大学を中心に、9月初旬に２週間弱の臨地研修を行う。

**[到達目標]**

現地研修に参加し、種々の講義を受けることにより、熱帯地域の農業・環境問題を認識し、理解を深める。また、タイの文化に関する講義と、文化施設を訪問することにより、異文化・異文化社会について理解する。英語での講義、英語での成果発表を行うことにより、英語の運用能力を高める。

**[授業計画と内容]**

夏季休暇期間にバンコク、チェンマイおよび周辺地域での臨地研修（9月初旬の2週間弱を予定）と、その前に安全管理に関する講義を含む集中講義を行う。現地では、本学の協定大学であるカセサート大学の講師陣の講義を受け、また、周辺地域では、農地、森林、文化施設等を訪問し、熱帯地域の農業環境問題を中心に、東南アジアについての総合的理解を深める。タイへの渡航費、滞在費は自己負担となる。

(日本国内での講義)
１．海外渡航時の安全管理、人々との接し方、海外渡航と健康、タイ語の挨拶
２．海外渡航時の連絡方法の確認
３．タイの自然・社会・経済環境・文化・歴史の概況

臨地研修の日程と内容
1日目： 移動（関西空港→バンコク）、カセサート大学でのオリエンテーション
2日目： 講義（カセサート大学の歴史・現況・社会での役割、タイの自然と農業）
　　： 移動（バンコク→チェンマイ）
3日目： 講義（山地部の農業と環境問題）、少数民族（モン）村落での見学、同村長への聞き取り調査、文化施設見学
4日目： 移動（チェンマイ→インタノーン国立公園）
　　： 講義（熱帯山地生態系、森林利用、湿地生態系、社会変化と森林資源管理）
　　： 移動（インタノーン国立公園→メーチェム）
5日目： 講義（山地低地部及び山斜面の農業と環境問題、山地部の社会変化と農業環境問題）、少数民族（カレン）村落での見学、同村長への聞き取り調査
6日目： 移動（メーチェム→オップルアング国立公園）
　　： 講義（森林利用、先史遺跡と地質）
　　： 移動（オップルアング国立公園→チェンマイ →バンコク）

海外実地セミナー :変容する東南アジアー環境・生業・社会と持続的発展(2)へ続く↓↓↓

7日目： アユタヤ史跡公園での講義（アユタヤ時代の歴史、文化）と史跡公園見学
8日目： 移動（バンコク→サムットプラカン）
：講義（塩田による製塩と環境問題、塩生植物の生理学）
：移動（サムットプラカン→ダムナーンサドゥアック）
：講義（デルタの土地利用、沿岸湿地部の農業技術）、園芸農家見学と聞き取り調査
：移動（ダムナーンサドゥアック→カセサート大学カンペンセンキャンパス）
：講義（熱帯園芸の発展と課題）、国際野菜センター見学、実験圃場見学
：移動（カンペンセン→バンコク）
9日目： 移動（バンコク→チャチェンサオ）
：講義（内陸エビ養殖と環境問題）、エビ養殖業者への聞き取り調査
：移動（チャチェンサオ→サケラート環境研究所）
：講義（熱帯林植生と動物多様性）
10日目： 講義（熱帯林植生と植物多様性）、落葉フタバガキ林と常緑林の見学
：移動（サケラート環境研究所→パクチョン）
11日目： 講義（タイの食文化）、パクチョン市場における聞き取り調査
：移動（パクチョン→パタナニコム）
：講義（タイにおける植林の問題点、平原部の土地利用と環境問題）
：移動（パタナニコム→バンコク）
12日目： 成果発表会
13日目： 移動（バンコク→関西空港）
（コメント）　受講者は、5月に行われる説明会に必ず出席すること。説明会の日時・場所は別途掲示する。研修旅行ならびに研修前の講義は、夏季休業期間中に行う。伝染病・自然災害・政情など研修先の事情により臨地研修ができないことがありうる。その場合、国内での集中講義に振り替わることがあるが、支払った費用の一部は戻らないことがある。

**[履修要件]**

旅行費用は自己負担。必要な金額については説明会で周知する。旅行費用のおもなものは、往復航空券代と現地宿泊費および食費であるが、航空券代は世界情勢を受けて変動が激しく予測が難しいものの宿泊費と食費は国内よりも安価である。本人および保護者が自己責任の原則を了承の上、必要な保険等をかけること、海外滞在リスクを十分認識し自らを律することができることも、受講の前提となる。また、6月に予定されているタイ側交換留学生受入行事への参加を推奨する場合もある。

安全講習の受講、学研災付帯海外留学保険への加入が確認できない学生は、海外セミナーに参加することはできない。

**[成績評価の方法・観点]**

帰国後提出のレポートの内容、および事前講義への出席、研修への参加状況と取り組み姿勢、現地での成果発表会での発表内容により評価する。成績評価の詳細は事前講義で説明する。

**[教科書]**

使用しない
授業中にプリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）
授業中に紹介する

海外実地セミナー :変容する東南アジアー環境・生業・社会と持続的発展(3)へ続く↓↓↓

**[授業外学修（予習・復習）等]**

事前講義の内容を十分に理解、復習し、現地研修での準備を入念に行うこと。

**[その他（オフィスアワー等）]**

オフィスアワーは設けないが、下記のメールアドレスで、随時質問等を受け付ける。
higuchi.hirokazu.2a@kyoto-u.ac.jp

なお、現地研修は採点報告日（８月中旬）以降に実施するため、成績報告が遅れる場合がある。

※本科目は、現地における大規模災害の発生や治安状況の急速な悪化、感染病等の急拡大によって不開講となる可能性があります。